

2020年3月修了  
修士（学術）学位論文

クリエイティブな地域づくりのメカニズムと

地域づくり組織のマネジメント

—神山のクリエイティブな地域づくりを事例として—

Creative community development mechanism and  
Management of community improvement organization

—A case study of kamiyama's creative community —

高知工科大学大学院 工学研究科 基盤工学専攻

学籍番号 1225132

小 笠 義 照

Yoshiteru Ogasa

## 要 旨

人口減少や高齢化の影響を受けて衰退しているといわれている地方においては、様々な地域づくりの取り組みが行われているが、その運営を行う組織や関係者は大変重要な役割を果たしている。しかしながら、リーダーやキーマンの重要性や新しい取り組みの紹介などはよく見受けられるものの、組織体制や運営方法については昔ながらの方法で続けられている場合が多く、地域づくり組織について学術的な視点での議論が進んでいるとはいえない。一方で、現在は時代背景が急激に変化しつつあり、モノの時代からココロの時代への変化（モノ消費からコト消費への変化）、情報化社会への変化による働き方の変化、組織形態や人のつながり方の変化（インターネットメール、SNS）がみられる。したがって、地域づくりにおいても、このように社会環境が変化していることを踏まえた組織づくりや運営を考える必要がある。

そこで、地域づくりの組織や人の関わりについて、事例を基に学術的な観点から分析を行ってメカニズムを解明し、そのメカニズムから地域づくり組織やそこに関わる人々のあり方を提示する研究を進めた。まずは関係すると考えられる学術理論や先行研究のレビューを行った後、一般的な地域づくりについて俯瞰し、次に個別の事例に基づく記述的推論として、先進的地域づくりの成功事例として他に例のない独自のクリエイティブな地域づくりを行っている徳島県神山町の事例を記述した。事例の選定については、これからの社会は創造経済（創造性が経済発展の中核的な資源となる経済システム）の時代と言われており、<sup>(1)</sup> 創造性が重要な時代になると思われ、神山の事例は前に述べたような時代の変化を見据えていると判断したからである。

そして、創造的地域づくりと組織化のメカニズム分析として、学術理論を基に神山モデルの事例分析を行った。神山の地域づくりがクリエイティブであり、クリエイティブな地域づくりの組織は、自己組織化型となって個人自律化と相互交流による豊かなソーシャル・キャピタルにより「場」プラットフォームが形成され、そこで創出された成果がフィードバックされ、活動がさらに進展するというメカニズムを示した。そして、提示されたメカニズムを基にして、これからの創造的地域づくり組織がどのような点に留意して取り組みをしていけばよいかについて3つの提示を行った。1番目には、誰もが疑問に思うことが多いと思われる創造的な地域づくりと、地元住民の意識のギャップについて考察し、①創造的地域づくり組織と地域コミュニティとして地域づくり組織の役割を提示した。次に、自己組織化には個人の自律が欠かせないが、この個人自律化について②創造的地域づくり組織における自律化とエンゲージメントの支援として地域づくり組織の役割を提示した。最後に、少子高齢化による人口減少等、全国的に様々な分野で課題になっている担い手不足の問題については、地域づくりにおいても重要な課題となっているため、③創造的地域づくり組織のネットワーク特性と担い手として地域づくり組織の役割を提示した。

以上、本研究は創造的地域づくりという事例のメカニズムを分析して、地域づくり組織について考察してみたが、これを手掛かりとして今後の研究が進めば幸いである。